

2019年度事業報告書

特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【2019年度の活動の総括】

2019年度も、活動を行うことができました。

災害復興まちづくり支援では、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震の被災地に通いました。そこで、被災者の生活再建や地域の復興まちづくりの支援・調査研究活動を行いました。

過去の震災復興まちづくり支援の経験から、災害が起こってからでは、対処が遅くなることを学びました。そこで、防災や事前復興まちづくりの重要性を伝えるための活動も行っています。講演活動や防災まちづくりに携わる仲間を増やしていこうと、伝える場づくり“被災地のつぶやき”のインターネット発信、勉強会の開催に加え、“災害への備え～命・住まい・コミュニティー～”のインターネット配信も始めました。

各事業について下記で報告させていただきます。

任意団体設立から24年を迎え、継続できています。多くの方々に支えられ、感謝いたします。

【事業報告】

まちづくり部門

●被災地復興支援事業

被災地を訪問し、復興まちづくりや支援者への情報提供の活動を行いました。同時に、被災者や支援者が、別の被災地を訪問し交流する支援も行いました。

① 東日本大震災

1. 第一回訪問

9月14日～17日、東日本大震災の被災地を訪問しました。

14日～15日は、熊本地震の被災地でまちづくりに取り組む住民と熊本県立大学の教員・学生と共に、今後のまちづくりの参考にするため、東日本大震災で被災しまちづくりに取り組むまちづくり団体の視察をしました。全体的な状況を把握するため、まちづくり団体の支援をしているみやぎ連携復興センターと気仙沼まちづくり支援センターを訪問しました。その後、宮城県の沿岸部の地元団体を回りました。

17日は、宮城県石巻市雄勝町を訪問し、各集落の復興まちづくりの状況を把握すると共に、相談にのりました。

2. 第二回訪問

宮城県石巻市から、転出者した方々の状況を把握しました。

② 熊本地震

2016年4月14日の熊本地震から、3年を経ました。

3月4日には、熊本県で行われた日本弁護士連合会の災害復興支援委員会で「ひとり一人の納得のいく復興を目指して～被災者との関わりから模索したこと～」と題して講演をしました。講演後は、住まいの再建に困っていた被災者を、再度訪問しました。

4月15日～17日には、NPO法人「故郷復興熊本研究所」のシンポジウムに参加しました。

③ 西日本豪雨

豪雨から1年が経過した広島県・岡山県を訪問しました。

岡山県の真備町では、以前支援に行っていた町内会の会長を訪問しました。真備町を離れた地区の方々とも今も交流をされているようで、過去の被災地で集落を離れた被災者とも繋がりを持ち続けている事例を紹介しました。

④ 台風21号・大阪北部地震（2018年）

8月9日大阪府吹田市、高槻市、泉佐野市を、弁護士やNPO支援者と一緒に回り、被災者の生活再建の現状を教えて頂くと共に、過去の事例からアドバイスをしました。卒業論文を書いている学生も同行し、一緒に勉強しました。

⑤ 台風19号（2019年）

11月1日～8日に、訪問しました。台風19号で被災した丸森町、相馬市、大郷町、大崎市、石巻市を回り、状況を把握しました。

その情報を元に、インターネット等で、生活再建に必要な情報等を発信しました。

⑥ 鳥取県中部地震

被災者一人ひとりに寄り添う災害ケースマネジメントが実施されており、現状を把握すると共に、意見交換を行いました。



▲8月9日岸和田市社会福祉協議会（大阪） ▲6月18日震災復興活動支援センター（鳥取）

●地域まちづくり支援事業

神戸市長田区御蔵地区において、阪神・淡路大震災の慰霊法要の開催支援を行いました。

地区の建物の再建状況調査を行い、調査結果を「季刊まち・コミ」冬号、日本都市学会でご報告いたしました。

ボランティア活動を継続運営していくために、まち・コミへ相談に来られる方がおられます。そこで、当団体で培った小さな団体が活動を必要なノウハウを伝え、相談にのりました。

①事前復興まちづくり

2016年度より、災害が起こってから初めてスタートさせる復興まちづくりでは限界があると確信し、事前復興まちづくりへも取り組みを始めました。

日本各地へ講師として出向き、備えの大切さや、災害後の地域づくりのポイントを伝えてきました。

今年度は、大阪府千成地区の防災マップづくり等のアドバイス・支援を行いました。

【まちづくり研究調査事業】

9月16日は、専修大学社会科学研究所の復興ステークホルダーの調査に、研究員として同行し、宮城県石巻市の復興まちづくり団体の動向を把握しました。

北海道胆振東部地震の仮設住宅について調べ、季刊まち・コミで記事にし、災害復興学会で報告しました。

大学生や学識経験者を、現地（神戸市、兵庫県、宮城県、熊本県）で受け入れ、調査・視察コーディネートや支援を行いました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震等、復興まちづくりの現場で行われていることを知っていただく機会となりました。

関東都市学会からニュース及び年報の発送作業と会費請求作業を受託し、2月、4月、9月、11月に発送。9月には、年報の発送も行いました。過去の年報をスキャンし、デジタルデータを納品しました。

学びの場づくり部門

【震災体験学習事業】

2019年度は、震災体験学習の実施はありませんでした。

【研修受入事業】

下記のとおり、12件（海外4件含む）の研修を受け入れました。兵庫県、宮城県にて、被災地の現状と復興まちづくりについて伝えました。視察者の防災力向上を目指して視察を受け入れています。

<2019年度研修受け入れ状況>

| 日 | 受講者（主催者） | テーマ・目的 | 人数 |
|------|-------------------------------|---|----|
| 1/29 | 東洋英和女学院大学 | 長田の震災前の生活と被害と復興まちづくりの比較 | 15 |
| 2/25 | 関西国際大学 | 市民参加の復興まちづくり | 40 |
| 2/26 | パキスタン国家防災庁、JICA パキスタン | 市民参加の復興まちづくり | 6 |
| 3/7 | 中央大学ボランティアセンター研修 | 災害ボランティアとまちづくり | 15 |
| 3/27 | 関西大学菅磨志保ゼミ | | 15 |
| 5/18 | 兵庫県立大学 | 都市災害とまちづくり ～ 阪神・淡路大震災24年の経験から～ | 30 |
| 7/26 | リンダ教授(オックスフォード大学) | Experience rehabilitation activity - case of Disaster in Japan- | 5 |
| 8/27 | 東北学院大学 | 復興まちづくり支援に取り組む外部支援者としてのNPOの役割 | 3 |
| 9/11 | 関西大学社会安全研究科国際サマーキャンプアジア各国大学院生 | 災害復興まちづくりと協働 | 22 |
| 9/14 | 熊本県のまちづくり協議会、熊本県立大学 | 東日本大震災の復興まちづくり | 5 |
| 9/18 | 兵庫県立大学 | 阪神・淡路大震災からの復興まちづくり | 20 |
| 9/26 | 認定特定非営利活動法人 桜ライン311 | NPO組織の持続的運営について | 1 |



▲ 2月26日パキスタン国家防災庁（神戸）



▲ 9月18日兵庫県立大学（神戸）

【講師派遣事業】

講演等主催者の依頼に応じ、下記のとおり 20 件の講師・パネリストの派遣をいたしました。防災や復興まちづくりの大切さを伝えています。

<2019 年度 講師・パネリスト 派遣実績>

| 日 | 主催者（場所） | 講演テーマ | 講師等 | 受講者数 |
|------|-------------|---|---------------|------|
| 1/15 | 池田市 | 過去の災害の教訓を活かして備えよう | 宮定 | 120 |
| 1/18 | 兵庫県立大学 | 民間レベルでの日台の復興交流 | 宮定 | 50 |
| 1/19 | ひょうごラジオカレッジ | 阪神・淡路大震災から 24 年 ～次の災害へ備えるために～ | 宮定 | |
| 3/4 | 日本弁護士連合会 | 復興まちづくりのボランティア活動を通じて見えてきたもの～弁護士の果たすべき役割とは？～ | 宮定 | 120 |
| 3/27 | 東京大学 | 災害復興に関する被災者調査データの質的分析高度化の検討 | 宮定 コメンテーター | 15 |

| | | | | |
|-------|--------------------------------------|---|------------|-----|
| 4/23 | 関西大学菅磨志保ゼミ | ヒアリング調査のポイント | 戸田 | 30 |
| 5/10 | 兵庫県公民館連合会 | 防災に役立つ公民館一人が集まり知恵が集まるー | 宮定 | 80 |
| 5/11 | 地域社会学会 | 阪神・淡路大震災の復興まちづくり支援を活かして、災害後の地域社会の維持への挑戦 | 宮定 | 80 |
| 5/16 | 福岡県教育庁 | 防災に役立つ公民館 ー 人が集まり知恵が集まる ー | 宮定 | 70 |
| 5/23 | 岡山県公民館連合会 | 日々のつながりが災害時に生きる | 宮定 | 110 |
| 6/16 | 千成校区自主防災会 (大阪府豊中市) | 令和の災害対策 ～ 平成の災害の振り返りから学ぶ ～ | 宮定 | 150 |
| 6/19 | 鳥取大学 | 災害後の地域づくり | 宮定 | 210 |
| 6/22 | ふたば学舎 (神戸市長田区) | 防災学習とコミュニティ再建 (国際シンポジウム) | 宮定 | 30 |
| 7/14 | 復興まちづくりキャンプ (in 東京都) | 避難生活の改善と住まい・コミュニティの再建を目指して～直下型地震 阪神・淡路大震災からの報告～ | 宮定 事例報告 | 80 |
| 9/13 | 法政大学 | 被災時の避難所生活の実態、国内外の差異 | 宮定 | 30 |
| 11/29 | 近畿弁護士会連合会 | 事前復興と持続可能なまちづくり～南海トラフ地震を見据えて～ | 田中 | 40 |
| 12/3 | 内閣府(防災担当)行政と NPO・ボランティア等との三者連携・協働研修会 | 災害前の「少しの」知識と「顔の見える」連携で救える 被災者の命と住まい | 宮定 パネラー | 180 |
| 12/17 | 徳島大学理工学部理工学科社会基盤デザインコース | 被災者の命と住まいの再建から見た避難所のデザイン | 宮定 | 15 |

| | | | | |
|-------|--------------------------------|---|----------------|----|
| 12/18 | コミュニティは「求められていない」§8 ～地域と防災～ | 災害後の地域づくり 被災者に接して学んだこと～阪神・淡路大 震災・東日本大震災～ | 宮定 | 20 |
| 12/19 | 専修大学社会科学研 究所 | 阪神・淡路大震災から東日本大震災の10 年総括検証に向けて～復興・減災ステー クホルダーをたどりつつ～ | 宮定 パネ ラー | 20 |



▲5月11日地域社会学会



▲12月3日内閣府三者連携（神奈川県）

●まちづくり勉強会事業

震災復興まちづくりの教訓や経験を、今後の災害に活かそうと、様々な災害復興に関わる方々に講師としてお招きし計2回の御蔵学校を開催しました。

<2019年度御蔵学校 開催実績>

| 日 | 内容 | テーマ | 講師 | 受講者数 |
|-------|-----|--|---|------|
| 9/11 | 勉強会 | 東日本大震災から学ぶ、これからの災害への備え ～阪神・淡路大震災から25年 防災と復興を学ぶ | 阿部晃成氏（東北大学 課外・ボランティア活動支援センター、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程） | 20 |
| 11/16 | 勉強会 | 東日本大震災の被災地 福島の住まいの今 住まいの再建と復興まちづくりを学ぶ | 太田亘氏（UR都市機構 福島震災復興支援本部 福島支援部 建築計画課長）、小野寺憲一氏（気仙沼市震災復興・企画部部長） | 21 |

交流の場づくり部門

●地域間交流事業

野菜作りを通じ、「鳥居やすらぎ市民農園」や地元の非営利組織「暮らしの学校の〜ら」の方々と交流をしました。助けていただくことも多く、地元の方々や購入してくださる応援団に支えられながら、継続できています。今年度も、のべ50名近くの学生と社会人のボランティアの協力を得て、たくさんのたまねぎ、じゃがいも、黒豆をつくりました。



▲6月8日：たまねぎ収穫



▲7月6日：黒豆収穫

●国際交流事業

神戸市長田区、宮城県石巻市の当団体の活動現場に、多くの国の方々が訪問していただき、復興まちづくりについて交流しました。

9月には、台湾集集地震（1999年9月21日）・八八水害（2009年8月6日）の被災地交流に、兵庫県立大学の皆さんに同行させていただき、災害復興まちづくりを学びました。



▲9月21日ノーベル賞受賞者李遠哲氏講演



▲9月22日：八八水害移転団地

●情報発信部門

下記の各事業のほか、積極的に、人が集う場に参加し、被災地の復興まちづくりやまち・コミの活動について発信しました。また、マスコミや各種団体の取材にも対応しました。

【情報発信事業】

① 季刊まち・コミ

4号、各号6ページの通信誌を発行しました。会員や寄付者のほか、事務所の来客等に配布いたしました。

<2019年度季刊まち・コミ一覧>

| 号 | 発行日 | 特集タイトル | 郵送数 |
|----|-------|---------------------------------|-----|
| 春号 | 3/9 | 2018年度 活動のご報告 | 518 |
| 夏号 | 5/21 | 防災に関心を持ってもらえるように～インターネットで情報発信中～ | 484 |
| 秋号 | 9/7 | 北海道胆振東部地震から1年 自分の所有地での仮住まい | 582 |
| 冬号 | 11/29 | まち・コミュニケーションが歩んだ道 ～第1回 任意団体の設立～ | 571 |

② WEBまち・コミ <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

「季刊まち・コミ」のPDFデータ版、2018年度活動報告、2018年度計算書類等、新規情報をアップしました。

③ まち・コミブログ・フェイスブック

日々の活動を中心に、活動を報告しています。2019年度はフェイスブックを中心に、日々の活動の記事を約70本アップしました。

④ まち・コミメールニュース

7通のメールニュースを送信しました。

ニュース以外にも “テーマ毎（勉強会・講演会）に興味のありそうな方”、“開催場所に近い方”、“学生を誘ってくださる先生”等、対象を絞って情報発信しました。

⑤ 被災地のつぶやき

インターネットで、被災者の声を毎日発信している。Twitterのフォロワー数は約2300です。フェイスブックのいいね!の人数は、約1700人になっています。

⑥ 災害への備え ～命・住まい・コミュニティー～

インターネットで、防災に役立つ情報を毎日発信している。Twitterのフォロワー数は、約550です。

<2019年度メールニュース一覧>

| 送信日 | 内容 | 送信数 |
|---------------|------------------------------------|------|
| 5/22・23・25 | たまねぎ購入応援者募集、講演情報 ほか | 5511 |
| 6/19・20・21・23 | じゃがいも・枝豆購入応援者募集、季刊まち・コミ WEB アップ ほか | 5532 |

| | | |
|-------------|--|------|
| 9/4 | 【9月11日勉強会情報】東日本大震災から学ぶ、これからの災害への備え ～阪神・淡路大震災から25年 防災と復興を学ぶ会～ | 1917 |
| 10/3・5・6 | 黒大豆の枝豆購入応援者募集ほか | 5751 |
| 10/15 | 台風19号のお見舞いと、復旧・復興に向けて | 2043 |
| 11/10・11・12 | 勉強会とシンポジウムのご案内 | 5885 |
| 12/6・7・9 | ふるさと納税のお願いと勉強会の募集・案内 | 5875 |

【事業実施体制】

(1) 会議に関する事項

①通常総会

開催日 平成31年2月11日 11時15分から11時20分

開催場所 兵庫県神戸市長田区御蔵通5丁目211-4号-101(当法人事務所)

出席者 10名(うち表決委任者5名)

議事内容 第1号議案 2018年度事業報告および2018年度決算報告承認の件

②理事会

第1回

開催日 平成31年2月11日 9時30分から11時15分

開催場所 兵庫県神戸市長田区御蔵通5丁目211-4号-101(当法人事務所)

出席者 6名(うち表決委任者3名)

議事内容 第1号議案 2018年度事業報告および2018年度決算報告承認の件

第2号議案 2019年度事業計画および2019年度活動予算承認の件

③事務局会議 月2回 出席者：宮定章、田中保三、戸田真由美

(2) 事務局体制

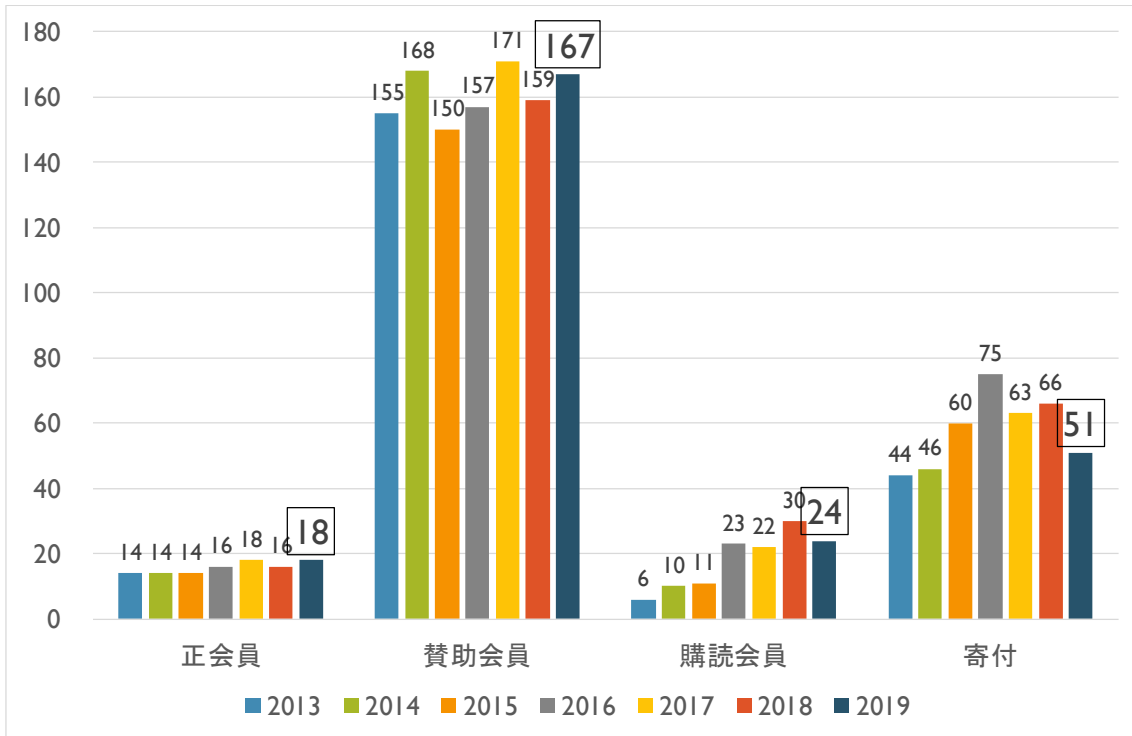
代表理事 宮定章 理事 戸田真由美

(3) 会員

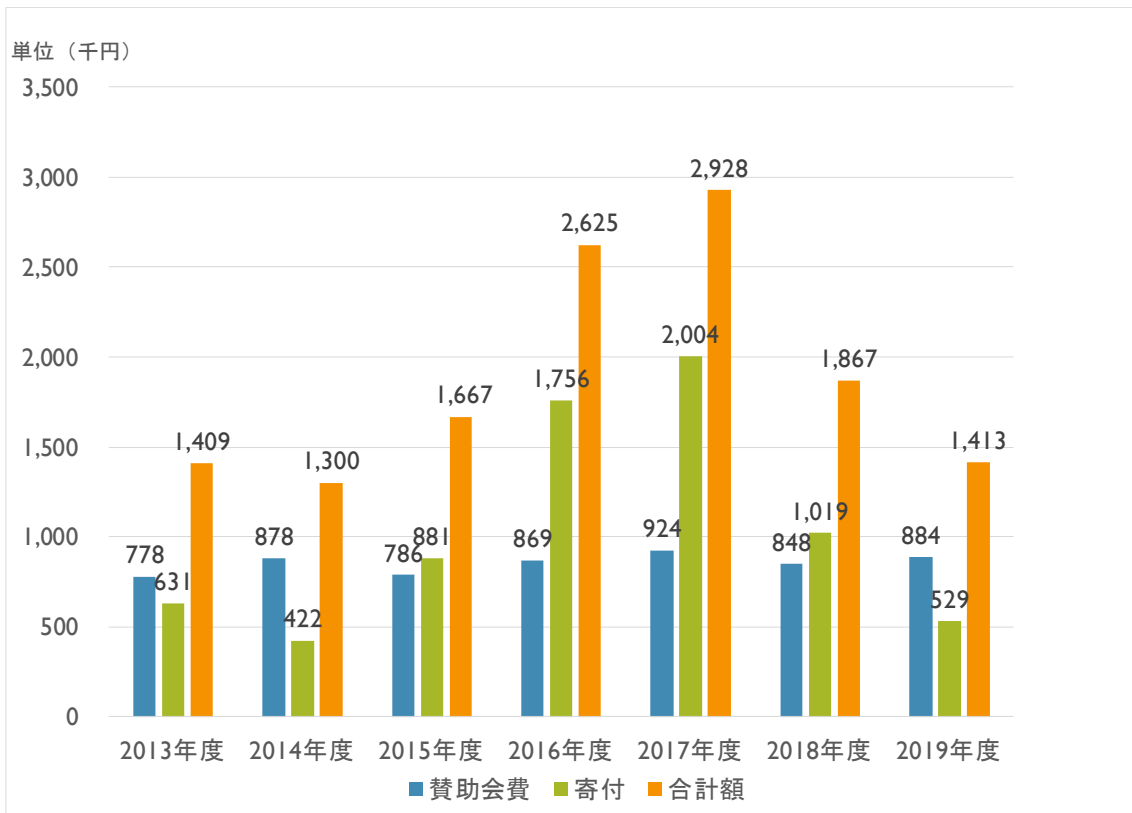
① 正会員 18名

② 賛助会員 167名

③ 購読会員 24名



▲ 会員・寄付者数の推移



▲ 寄付額(賛助会費+寄付)の推移

【資料】

●新聞掲載記事

1. 地域の絆 復興の原点 公織部の被災地支援NPO 宮定章代表理事に聞く（中国新聞 2019年1月14日）
2. 長田の復興経験、国外支援に生かす 訪台 100 回超、交流深め（神戸新聞 2019年1月17日）
3. 避難所の「質」／関連死減らし復旧促すために（神戸新聞社説 2019年1月22日）
4. 阪神・淡路大震災から 24年 ～次の災害へ備えるために～（ひょうごラジオカレッジ 放送ノート 2019年1月31日）
5. 住民の生活や営みを見つめる 現場で感じ、考える 私のものがたり（兵庫県社会福祉協議会 2019年4月）
6. 防ごう災害関連死 地震国・イタリアの避難所に学ぶ（徳島新聞 2019年9月1日）
7. 町に人戻る再興へ（毎日新聞 2019年9月17日）

●執筆

1. 復興まちづくりの経験から－外部者として大事にしたこと－（住民と自治 2019年3月）